

理財部会長報告

会議名 第6回理財部会
(オープン部会)

日時 2025年2月14日 (金)
13:30～15:00

場所 秋田商工会議所
7階 ホール80

出席者 理財部会員14名、他部会員等16名 計30名

懇談

テーマ 「アーリーステージ事業者によるビジネスモデル事例」

講演① (株)Gastronomy Labo 代表取締役 中島 康博氏

講演② (株)アウトクropp 代表取締役 栗原 エミル氏

講演③ (同)たんぽぽプロジェクト 代表社員 作左部 紀子氏



講演① (株)Gastronomy Labo (比内地鶏専門店ソリレス経営)

■ビジネスモデル

有利な勝てる商品を扱い、レッドオーシャンの隙間を狙う。長期的な目標を立てて、必要があれば戦略を変えながら、とにかく積み重ねる。

- ・東京の飲食店に勤め秋田での独立を検討していた当時、秋田で比内地鶏を提供するお店はあったが丸鶏から解体して料理を提供する店が少なかったことに着目し、秋田に専門店ができれば勝てると思って参入した。
- ・長期的には、店舗経営・イベント販売・通販事業の3業態で売上増加を図る計画。創業以来メニューもほぼ変えていないが、積み重ねていけば必ず誰かが見てくれる。

講演② (株)アウトクropp (映画製作・シネマ運営ほか)

■ビジネスモデル

まずは、好きなこと、自分にできることを精一杯やってみる。やがてそれは地域に根付き、仲間が増えれば地域から求められるものになっていく。

- ・「見えない物語を魅せる」をスローガンに会社を設立。社員の平均年齢は27.5歳。9割が県外出身者。
- ・元来秋田市は有楽町を中心に映画が盛んだったエリア。行政等と共創することでその文化を復活させ、地域から求められる産業にしていくのが目標。
- ・現在、秋田の酒造りと日本酒をテーマとした長編映画の製作に挑戦している。この作品を世界に発信し、秋田での映画祭開催を実現したい。

講演③ (同)たんぽぽプロジェクト (産後ケアデイサービス事業)

■ビジネスモデル

県内においては少子化が進んでいるにも関わらず、自治体が業務委託できる通所型産後ケア施設がないことが地域課題となっている。この課題に向き合い、産後ケアデイサービス施設の先駆けとして事業を展開している。

- ・「母子保健法の一部を改正する法律」の施行により、令和6年度までにすべての自治体が産後ケア事業を実施することが努力義務となったことを契機として開業。
- ・現在は県内25市町村のうち、秋田市をはじめ9市町村から事業を受託。
- ・「すべての母親に子育ての幸福感を」をスローガンに事業を展開。専門家が赤ちゃんを預かることで、非日常の寛げる環境を母親に提供。
- ・来所者からは好評であるが、現施設ではスペースが限られており1日2名の受入れが限界。新たな事業展開を検討する時期に差し掛かっている。

まとめ

- ・いずれも創業時に掲げた目標・理念を維持しながらも、内部・外部環境の変化に柔軟に対応することで事業を拡大している。
- ・また、新規に取り組む事業については補助金などの助成制度を活用することでリスクの軽減を図っている。
- ・参加者の1/3を占めたあきた起業塾受講者からは、今後体験するであろうアーリーステージ事業者特有の課題と解決策を共有できたと好評であった。